

10年連続の好決算記念

7月1日に贈呈式開催

塩沢信用組合は10年連続好決算を記念して地元へ利益還元を行うことを決定した。



イメージ画

地元への利益還元

痛みを抱えた始まりから

2008年はリーマンショックが起きた年であり、多くの金融機関では有価証券に多額の含み損が生じた。ほとんどの金融機関は実現損を発生させることを避け、先送りとしてきたが塩沢信用組合は生まれ変わるためにあえて実現損を発生させた。その後、10年間今日に至るまで黒字計上を続けている。

沢組

塩信

組合員、信栄会、地元団体、職員、市町へ贈呈

塩沢信用組合では10年連続の好決算を記念して7月1日に贈呈式を開催する予定だ。利益を還元する先は組合員、信栄会、地元団体、職員、市町を対象とする。組合員には出資配当金記念増配「5%」、各信栄会にはお祝い金「各20万円」贈呈、地元諸団体には助成金「各10万円」（10団体）贈呈、職員へは地域還元型特別手当「3万円」支給、地元自治体への寄付は毎年「100万円」を予定している。小野澤理事長は「信組を支えてくれている職員や組合員へ利益を還元することは重要なこと。信組が生み出す利益はいろいろなところへ還元され循環型経済の仕組みによって、地域を潤し、地域全体を発展させていく。」と語る。塩沢信用組合は今後も地域の発展のため利益を生み出し、地元へ還元していく考えだ。